

中学校区におけるめざす子ども像	社会の中で人とつながり、よりよく生きる子
-----------------	----------------------

堺市立新樟尾台小学校
校長 古谷 俊之

<p>令和7年度 重点目標</p> <p>(1) 自立貢献～「探究」と「協働」をど真ん中に置く学校をめざす～</p> <p>(2) 具体的なめざす力・像</p> <p>育てたい力・・・考える力 めざす児童像・・・発想豊かな児童 めざす教職員像・・・「良き伴走者」「つなぐ・つなが(げ)る」教職員</p>

<p>確かな学びの現状と今年度の基本的取組みに関する考え方</p> <p>令和4年12月に中央教育審議会が公表した「令和の日本型学校教育」は、長年続いた戦後の知識注入型学びにおいて一つの解を求める「正解主義」や集団において個人が他の人と意見を合わせるように誘導される「同調圧力」を克服して、すべての子どもを「自立した学習者に育てる」ことが示された。この公表を受けて本校では、学校教育目標を「自立貢献～「探究」と「協働」をど真ん中に置く学校をめざす～」を掲げて一昨年度をスタートさせた。具体的には、高学年における「教科担任制」と低・中学年における「授業交換制」の導入である。教科担任制・授業交換制は教職員の専門性を育成しながら授業の質の向上を図り、児童一人ひとりの理解度・定着度を更に図る。同時に複数の教職員が関わることにより多面的な児童理解を図り、学校全体で児童を育てる意識を高める。</p> <p>昨今AIやチャットGPTが急速に進化し進む中、昨年度より一定の基礎知識をベースにした上で「考える力」「行動する力(第一段階として地域での行動)」を目指し、実践を伴う探求力向上につなげ、特に総合的な学習を通じて児童が主体的に地域と協働することを本年度バージョンアップして進める。(新樟尾台オリプロジェクト等)学校群としても「防災・減災活動」に取り組み一昨年度末に進められた児童の手作りの防災パンフレット及び昨年度完成した「防災カルタ」の活用し、防災・減災教育の新たな進化、キャリア教育と融合した社会や地域での活動等を行う。また、「学びのコンパス・STEAM教育」推進にあたり、「総合」をキーとするカリキュラムマネジメントを意識した「つながる教育」を重視する。以上の実現を図るためにICTを駆使した「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく行い、学校教育目標の実現に向けて学びの実現に努力する。</p>	<p>豊かな心・健やかな体の現状と今年度の基本的取組みに関する考え方</p> <p>「豊かな心」 特別活動(学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事)の充実することで、児童一人ひとりの心の醸成及び人間性の高揚を図る。望ましい集団行動を通じて心の調和と個性の伸長を児童同士、児童と教職員、児童と地域の方々と本校の特徴である「縦割り活動」や昨年から本格実施している「地域との協働活動」、特に人との交流体験を重視した心の醸成に今年度は更に力を入れて取り組む。「総合的な学習」の専科教員が配置されたことにより、一昨年度から力を入れている「防災・減災教育」の更なる深みを追究すると共に3年生から中学校3年生までの「総合」を系統立てることを考えながら、7年間の本学校群における「総合」の体系化をめざす。そのような「総合」の充実を通して、自分たちの住む社会や地域の実態を知り、進んで他の人々や集団、地域の活動や安全に貢献したい児童生徒を増やし、将来の地域の担い手としての意識向上のきっかけとさせる。これらの活動により将来地域を担う一員としての自覚が生まれ、「地域を愛する心」の醸成に結びつける。「道徳」は昨年度まで3年間行ってきた校内研修の教科として位置付は終了するが、道徳心を意識した活動を行う。「読書習慣の確立」と「ピブリオバトル」を通して人に伝える力・コミュニケーションする力の増進に取り組んでいく。令和8年度の支援学級に関わる制度改革を意識し、支援学級とは各学年が交流会を行い、日常的にクラスで共に学んだりすることで、共に尊重し合いながら生活していく態度や心を育てていく。これらの活動を通して、本年度も学校一丸となつて、教育活動を通しての「豊かな心」の育成をめざしていく。</p> <p>「健やかな体」 昨年度より体力向上検討会議のメンバー校になったことに伴い、外部の有識者のご指導も得られるので小学校体育の本質の研究も視野に入れた活動を行う。研究の骨子は「一人ひとりに合った持続可能な運動の発見」とし、100年人生を意識した生涯に渡っての運動の意識化を小学校時代から育むことを掲げている。昨年度試行した、民間の幼・小学校体操教室を主宰している先生を定期的に招聘し、体育のカリキュラムに融合する形で「基礎体力・体と心のバランスを重視した健康体操教室」を実施する。縦割りを意識したなわとび活動の充実、校外的には連合運動会等全市民的な体育行事、地域での体育的交流行事、幼少連携体育行事等を企画或いは参加して、「健やかな体」の育成をめざす。「VUCA時代に生きる本校の子ども達が心身共に強く生きる少々わんぱくでたくましい樟尾っ子」をめざす子ども像とする。</p>
---	--

中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
						自己評価	学校関係者評価
基礎学力の定着	「読む・話す・聞く・書く」力、計算力の育成	・朝の読書タイム(火・木曜日)、読書ノートを使用した図書室の本の貸し出し等を通して、読書意欲を高める。秋以降は、読むことを話す聞くことにつなげる「ピブリオバトル」も取り入れ、総合的な学力の展開につなげる。 (●教科担任制・授業交換における課題・次のステップの考察)	・学校独自アンケートの「読書30分以上」の児童全体の割合を昨年度以上 読書ノートの冊数状況。 ピブリオバトル開催数。 (担当教諭との対話の充実)	学校独自アンケート 読書ノート	年度末 毎学期		
		・5.6年生の算数で専科指導を実施し、児童の理解度に応じた基礎基本の着実な定着を図る。	すくすくウォッチ・全国学力調査の正答率を大阪府平均以上	すくすくウォッチ 全国学力調査	年度末		
		●総合的な学習の時間及び生活科の時間と学級活動の話し合い活動を通して、自分の意見を分かりやすく伝える力、人の意見をきちんと聞く力、異なる意見に対して調整する力などコミュニケーション力を育てる。	各話し合い活動の目標がほぼ達成できたか。	話し合い活動の観察	毎学期 年度末		
確か	家庭学習の習慣の定着	授業についての調べ学習や復習、日記など自主的な家庭学習として「ひのおスタディ」に全学年取り組ませる。学習手法の高度化を取り入れ効果的な家庭学習を目指し、来年度に向けてICT等を使った個別最適な家庭学習の考察、実証試験の実施を行う。	各学年の提出目標値以上	ノート提出率	毎学期		

豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	生徒指導の充実	・「あいさつ」「清掃」「廊下歩行」「トイレのスリッパの整頓」を重点項目として指導の徹底を図る。	学校評価児童アンケート「自分からすすんであいさつをしている」 学校独自アンケート「近所の人に、あいさつをしている。」「学校のきまりを守っている。」	学校評価児童アンケート 学校独自アンケート	年度末							
		★赤坂台中学校区ブランドデザイン「めざす子ども像の育成」 低・中・高学年別集団による意識の向上	●児童会・学級会・「あおぞらグループ活動」(縦割り活動)を充実させ、自他のよさを認め合うことができるようにする。 ★学校群の児童生徒の約束の推進・活用 ★集団の中で自分と向き合い、積極的に自分の役割を果たし、他者とともに成長しようとする子どもを育てる。 ★自分の違いを認め合い協働できる子どもを育てる。 ★責任感と思いやりをもった行動ができる子どもを育てる。	学校評価アンケート「あおぞらグループ活動は楽しい」(児童)、「思いやりの心や感動する心などを育て、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」(保護者) 教職員アンケート「子どもは集団の中で自分と向き合い、積極的に自分の役割を果たし、他者とともに成長しようとしている」「子どもは自他の違いを認め合い協働できる」「子どもは責任感と思いやりをもった行動ができる」	学校評価アンケート 新檜尾台・赤坂台両小学校教職員アンケート	年度末 12月							
	心の教育の充実	道徳教育の充実	・年間計画に基づいた道徳の授業を実践・研究するとともに、保護者参観でも年1回道徳の授業を公開する。	全学級が参観で道徳授業を公開する	実践報告	毎学期							
	心の教育の充実	人権教育の充実	・年間計画に基づいた人権総合学習の実践を通して、他人を尊重し、仲間や友だちを大切にすることを育て、自分を大切に、自尊感情が持てる子どもを育成する。 ・本校「いじめ防止対策基本方針」を全職員が共通理解し、未然防止・早期発見・早期解決に努める。	学校評価アンケート「学級の仲間としてみんなから大切にされている」(児童)、「思いやりの心や感動する心などを育て、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」(保護者)	学校評価アンケート	年度末							
	心の教育の充実	特別支援教育の充実	・支援の必要な児童を把握し、適切な配慮や支援のあり方について共通理解を図りながら、特別支援教育の充実をめざす。	校内研修を実施し、実践に生かす	実践報告	毎学期							
			・全ての子どもに分かりやすい授業や誰もが過ごしやすい集団づくり、学習環境の整備をめざし、授業のユニバーサルデザイン化に努める。	校内研修を実施し、実践に生かす	実践報告	毎学期							
	体力向上	健康安全について理解し、積極的に運動に取り組む児童の育成	・体育の授業に加え、学校全体の取組であるなわとび朝礼などを通して、運動への意欲を高める。体力向上検討会議のメンバー校としての研究 ★不定期であるが、6年生の中学校体育専科教員による授業の実施。中学校における赤坂台小学校との中学校教諭による混成授業の展開。土曜日中学校部活動への参加。	運動への意欲 学びの診断質問紙「運動やスポーツが好き」	カード記録 児童観察 6年生及び小中教職員アンケート	毎学期							
			・食育・保健指導を充実させ、児童が自らの健康について考える力を育成する。	食育・睡眠教育等にかかわる授業を実施する	実践報告	毎学期							

地域協働	開かれた学校	学校情報の積極的な発信	・学校ホームページ・校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	ホームページアクセス数昨年度以上 学校評価保護者アンケート「学校からの文書や通信、ホームページ等の内容は分かりやすく、タイムリーである」	実践報告 学校評価アンケート	毎学期				
		地域との連携	●「堺版コミュニティスクール」の組織をより強化し、教育活動、児童見守り活動等を支援できる体制とする。社会地域に開かれた学校を目指し、協働的活動の具体案として「新檜尾台小学校オーリーブの森」を活用する。地域住民の生涯教育も兼ね合わせた計画・実践を目指す。	外部人材を効果的に活用する 学校評価保護者アンケート「家庭や地域と連携協力して子どもを育てようとしている」	実践報告 学校評価アンケート	毎学期				
			●★今年度は幼保小連携及び中学校区3校の学校群を意識した活動及び地域連携における活動の3つの取組みを中心に実施する。	先ず教職員同士の話す機会を増やし、その上で相互の授業参観・公開研究授業参観や各行事に積極的に参加し、交流する	実践報告	毎学期				
校長より(年度末)						学校関係者評価者から(年度末)				